

リレーコラム 42 キャリアの積み方－私の場合

私は何屋さん？小児循環器、そして医学教育

秋田大学医学部附属病院総合臨床教育研修センター **岡崎 三枝子**

私が医学部を卒業した頃は、まだ初期臨床研修制度前で専門診療科を国家試験発表前までに決めればOKという時代でした。悩みすぎて、4月1日に小児科医局に挨拶に伺ったところ、「……」。数秒後「…今日はエイプリルフールだね。」と准教授から言われ、大爆笑で入局したのは良い思い出です。

小児救急医療に興味があったため、三次救急と集中治療を学べる小児循環器医を目指しました。「小児循環器医として一人前になるには10年かかる」と指導医に言われたため、どんなことがあっても10年は続けると心に決めました。緊急・重症対応で大変な時もありましたが、充実した日々でした。女性小児循環器専門医のロールモデルはなく試行錯誤でしたが、小児循環器の医師だけでなく、看護師・技師さん方をはじめ、心臓病の子どもたちのお母さん方からも日々励まして頂き、結婚・子育てしながらも前に進むことができたのだと思っています。

そんな中、東北地区初開催のPALSコースを受講しました。アメリカ人インストラクターにあたり、英語でコアケースシミュレーションを行いました。これまでにない学びの楽しさがありました。そして同時に、コースがこれまでの学習方法と全く違うことに衝撃を受け、学んだ方法でしか教えられない自分の限界に気づきました。「指導すること」をきちんと学ぶ必要を感じPALSインストラクターとなり、さらにシミュレーション医学教育の学びを求めて、ハワイ大学SimTikiシミュレーションセンターの医学教育指導者向けコースを次々と受講しました。学ぶにつれ、自分の教育実践の中で山積していた課題が、整理されていき、目からウロコが落ちる経験をしました。その後、シミュレーション教育にとどまらず医学教育を学びたいと思い、2019年度の京都大学FCME（Foundation Course for Medical Education）に参加する機会を得ました。学年もバックグラウンドも違う同期生12名とともに、年間124時間の授業と事前事後課題提出、年3回の参加型授業とハードな一年を過ごしました。ここで得たものは代え難く、「FCME5期生です」と言えることを誇りに思っています。

学内では専門臨床と子育てを両立？しているということで、卒後10年目頃より男女共同参画関連の授業等に声をかけて頂くようになり、現在は学内で男女共同参画の責任者として仕事をしています。この分野でも医学教育の知識は非常に役立っています。

ふと振り返ると、「私は何屋さんなんだろう？」と思うのですが、学びたいことをコツコツ続けたことで、自分らしいキャリアができたのだと思っています。まっすぐ1つのものに向かって進むキャリアもありますが、私は自分の軸を小児循環器に据え、その周囲で医学教育を学んで来たことにとっても充実感を感じていて、1つの事象を多角的に見るレンズを手に入れて言語化できるようになり、振り返りと対話を通してじっくり考え、向き合える今を、とても楽しんでいきます。

<著者略歴> 岡崎 三枝子 おかざき みえこ

1999年 秋田大学医学部卒業

2005年 秋田大学大学院医学研究科修了

2010年 秋田大学医学部地域医療連携学講座 特任助教

2019年 秋田大学医学部附属病院総合臨床教育研修センター 特任講師

2022年 同センター 講師 小児循環器専門医、胎児心エコー認証医、医学教育

犬のお散歩とドッグトレーニング、ピアノ・パイプオルガン・バンド、秋田の海・山で気分転換

～男女共同参画推進委員会より～

『多様性の時代』の医学教育

男女共同参画にとどまらず、ダイバーシティという言葉が一般に広く認知されるようになりました。ダイバーシティには性別・性自認・年齢・国籍・人種・障害の有無といった表層的ダイバーシティのみならず、考え方・習慣・職歴といった深層的ダイバーシティが含まれます。医療分野において表層的ダイバーシティ推進が遅れていることは論を俟たないものの、医師を始めスタッフの価値観やキャリアは多様化しています。特に若い世代ではその傾向が顕著です。その様な時代にあって、従来の画一的な方法よりも、個々に合わせたやり方が医学教育に求められています。小児科医・指導医自身も考え方やキャリアを柔軟に考えて様々な経験を積み多角的な視点を得ることが、この『多様性の時代に次世代を育てる我々にとって必要であると考えます。